

令和6年度(2024年度)第8号  
 豊中市立北緑丘小学校  
 令和6年(2024年)12月2日

# つながる学校

- 自分で考え、判断する力を持つ子ども
- 自分で目標に向かって、努力を続ける子ども
- ちがいを認め合い、相手の立場を尊重し、仲間とつながりあえる子ども

## きたみどオートムフェスティバル2024



11月9日(日)きたみどオートムフェスティバル2024が公民分館・PTA主催で行われました。ステージでは梅花学園のチアリーディングのショーをはじめいろいろな催しが行われました。そのほかにも地域の方々の出店、運動場でのゲームがあり、子どもたちも楽しそうに過ごしていました。体育館では子ども教室の作品をはじめ地域の方々の俳句や絵画、写真などが掲示されていました。また体育館の発表ではフォークソング、ピアノ独奏、紙芝居や落語なども行われていました。

いろんなものがあって、いろんな楽しみ方がある。まさに今求められている「多様性」を象徴するような「きたみどオートムフェスティバル2024」でした。

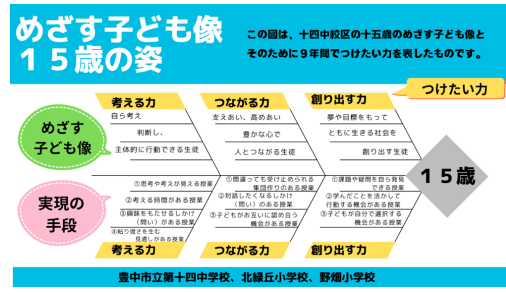


## 先生方も十四中校区で高めあっています

現在豊中市は「小中一貫教育」を推し進めています。また庄内地区には「庄内さくら学園」という義務教育学校(小中一貫型の学校)がスタートしています。

このような話をすると「豊中市は北緑丘小学校は無くし、新しい学校をつくらうとしているのでは?」と思われるかもしれませんが、そうではありません。豊中市で進めているのは中学校校区ごとの切れ目のない小学校から中学校へ向けての一貫教育です。

この方針に基づき、十四中校区の3校(第十四中学校、北緑丘小学校、野畑小学校)では研究指定を受け、小中の連携を考えた教育に取り組み始めています。



具体的には【十四中校区の目指す子ども増(15歳の姿)】を3校で話し合っ決めて決めた。その姿に向かって3校それぞれが授業に取り組んでいます。

11月20日(水)算数の研究授業がありました。以前からお伝えしていますが、今年度本校では算数を研究強化として【ねばり強く考え表現する子どもを育てる～算数科の指導

法の工夫を通して～】取り組んでいます。当日は第十四中や野畑小学校の先生方はもちろん、指導助言として関西国際大学の上原准教授に来ていただきました。

「北緑丘小学校の面積を求める方法を考えよう」という学習で、複雑な形をした学校の面積をどのように工夫すれば求められるようになるかを考える授業でした。

子どもたちはタブレットを用いて学校をいろいろな図形に分ける工夫を考え、一生懸命に面積を求めようとしていました。

授業が終わった後の研究討議も先生方もグループに分かれ、授業についての「よかった点」「改善した方がよいと考えられる点」について熱心に協議をしていました。

「自画自賛」ではありませんが、本校の先生方の研究討議をしている姿は本当に素晴らしいと感じています。研究授業で得られたことをもとに、今後とも小中学校の連携の研究がますます進むことを願っています。

